

櫻庭利弘 略年譜

	出来事
1934(昭和 9)	青森県西津軽郡深浦町(旧大戸瀬村)に生まれる。
1953(昭和 28)	青森県立木造高等学校を卒業と同時に車力小中学校代用教員(臨時免許状)となる。「北画会」参加。この頃、武蔵野美術大学通信教育を受講しており(約 6 年間)、参加した夏季講習では麻生三郎や非常勤講師を務めていた棟方志功の講義を受ける。 ・日本アンデパンダン展出品
1954(昭和 29)	木造高等学校の後輩らとのデッサン会を中心とした絵画グループ「木曜会」を結成。
1960(昭和 35)	市浦村立相内小学校(現五所川原市相内)へ転勤。 ・初個展[十三シリーズ](カメノヤ 2F ホール、五所川原市)
1965(昭和 40)	深浦町立広戸小学校へ転勤。
1967(昭和 42)	深浦町立修道小学校へ転勤。
1968(昭和 43)	中里町立若宮小学校(現中泊町若宮)へ転勤。
1969(昭和 44)	「北美術会」同人となる。常田健が主宰する「青森美術会」会員となる。 ・「北美術会」出品 ・「平和美術展」出品
1970(昭和 45)	・個展[流木・土手シリーズ](中三デパート、五所川原市)
1971(昭和 46)	金木町立川倉小学校(現五所川原市)へ転勤。
1972(昭和 47)	油彩画が高木恭造著『津軽の人々』(津軽書房)の表紙に用いられる。 ・個展[「潮だまり」シリーズ](田中屋画廊、弘前市) ・《潮だまりの譜 2》で独立展初入選、以後連続出品。
1974(昭和 49)	油彩画が長部日出雄著『津軽空想旅行』(津軽書房)の表紙に用いられる。
1976(昭和 51)	「櫻庭利弘素描集」(文芸協会出版)出版。油彩画が長部日出雄著『いつか見た夢』(津軽書房)の表紙に用いられる。 ・個展[「忍」シリーズ](中三デパート、五所川原市)
1977(昭和 52)	中国(北京・西安)スケッチ旅行。
1978(昭和 53)	三厩村立三厩小学校に転勤。 ・個展(三美、弘前) ・平田隆一、高谷幹郎、櫻庭利弘 三人展「詩季画廊」(東京・銀座)
1979(昭和 54)	「青森昭和会」(1976 年結成)参加。同会はこの年第 4 回青森県芸術文化報償受賞。
1980(昭和 55)	・個展(五拾壹番館ギャラリー、青森市)
1981(昭和 56)	五所川原市立五所川原小学校へ転勤。
1986(昭和 61)	「青森県新表現美術協会」の発起人となる。(8 月 3 日発会式、11 月 12~16 日第 1 回展、櫻庭も出品) ・高谷幹郎と二人展(望月画廊、東京・銀座) ・個展(史染抄ギャラリー、東京・銀座)
1988(昭和 63)	・個展(ギャラリー・デネガ、弘前市)
1991(平成 3)	五所川原市立南小学校へ転勤。
1992(平成 4)	・個展(市浦村歴史民俗資料館交流コーナー)

	・個展(ギャラリーあるち、青森市)
1993(平成 5)	・個展(田中屋画廊、弘前市)
1995(平成 7)	42 年にわたる教職を退職し、同年、私設美術館(金木町芦野公園入口前)を開設。 ・個展(ギャラリー銀河、青森市)
1996(平成 8)	5 月、陸奥新報に「つがる絵日記」の連載が始まる。(翌年 4 月まで 50 回)。12 月、朝日新聞青森版で「私の教育日誌」の連載が始まる(99 年まで 100 回)。
2001(平成 13)	・個展(詩季画廊、東京・銀座)
2003(平成 15)	・個展(望月画廊、東京・銀座) ・個展(エルム街角ギャラリー、五所川原市)
2006(平成 18)	五所川原市文化賞受賞
2008(平成 20)	生まれ故郷にある深浦町美術館へ油彩画 15 点を寄贈(2014 年にも 17 点寄贈)。 ・高谷幹郎と二人展(中三デパート、青森市) ・東奥日報社主催「現代美術作家 8 人展」(青森市民美術展示館) ・個展(エルムホール、五所川原市)
2009(平成 21)	・個展(深浦町美術館)
2014(平成 26)	・個展[独立展出品作による櫻庭利弘作品展](深浦町美術館) ・回顧展「櫻庭利弘の世界」(エルムホール、五所川原市)
2017(平成 29)	著書『デモシカ先生回想記 <壺>』(青森文芸出版)が出版される。以後、第<弐>巻が 2019 年、第<参>巻が 2022 年に出版される。
2021(令和 3)	・個展[水彩画展](ギャラリーカフェ ふゆめ堂、五所川原市)
2022(令和 4)	・秋庭麻里と二人展(ギャラリーカフェ ふゆめ堂、五所川原市) ・山谷芳弘と二人展(ギャラリーカフェ ふゆめ堂、五所川原市)
	現在、五所川原市金木町在住。独立美術協会準会員、日本美術家連盟会員。

[特別企画] デモシカ先生の絵画(かいが)道(みち): 櫻庭利弘(さくらば・としひろ)の歩み

Teacher *demo-shika* / Painter SAKURABA Toshihiro's way of life

津軽地方を拠点に活動する画家で元小学校教員の櫻庭利弘は、1934(昭和9)年、青森県西津軽郡深浦町に生まれました。定年退職するまでの42年間に及んだ長い櫻庭の教員生活は、1953(昭和28)年、当時の車力(しゃりき)村(現つがる市)にあった車力小中学校に代用教員として職を得たことに始まります。戦後の教員不足の時代にあつて、「先生にデモなるか」「先生にシカなれない」と、一時しのぎのように教職に就いた代用教員たちは当時「デモシカ先生」と呼ばれました。櫻庭は近年、教師としての半生を『デモシカ先生回想記』と題した3巻の本にまとめました。そこには櫻庭と教え子たちの心温まる日々のエピソードや、櫻庭自身の信念のある生き様がいきいきと綴られています。

櫻庭は小学校教員として勤務するかたわら独学で油彩画を学び、50年以上にわたり制作を続けてきた画家でもあります。日本海に面した小さな集落で過ごした幼少時代、美しく神秘的な海の光景に感性を育まれた櫻庭は、その長い画歴において、深浦の海の生物や轟川に沈む石、岩木川の流木など、津軽の自然に触発されながら、人間の内面に潜む生と死の相克を、力強く鮮やかな色彩のうねりと渦の中に表してきました。

櫻庭は教員を退職後、自らのアトリエ兼展示スペースとして、また人々が集う場として金木町に「私設櫻庭利弘美術館」を設立しています。この交流の場ができる以前から、津軽を拠点とする櫻庭のもとには、工藤哲巳(1935-1990)、田澤茂(1925-2014)など、青森に縁ある同世代の美術家たちや、撮影で青森に通った写真家の北井一夫(1944-)といった、さまざまな芸術家たちが訪れていました。

この展覧会は、櫻庭の教員そして画家としての歩みを資料と作品で振り返るPART1と、彼が交流を持った芸術家たちを紹介するPART2の二部構成となっています。津軽の地に根ざし、絵画の道を貫いてきた櫻庭利弘の歩みと彼が生きてきた時代を見つめることで、私たちの「今」もあらたな姿で浮かび上がってくることでしょう。

協力: 私設櫻庭利弘美術館、深浦町美術館

